

平成 15 年 11 月 28 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区内の 2 つの構造で炭化水素を発見

国際石油開発株式会社（インペックス）は、同社子会社インペックス北カスピ海石油㈱を通じて探鉱事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区において、2003 年 4 月よりカシャガンサウスウエスト構造に試掘第 1 井「カシャガンサウスウエスト 1 号」（Kashagan Southwest-1）を、2003 年 5 月よりアクトテ構造に試掘第 1 井「アクトテ 1 号」（Aktote-1）による掘削作業を行なっていたが、今般両井を掘止め後、実施した産出テストの結果、カシャガンサウスウエスト 1 号においては日産 2,100 バレルの炭化水素を、アクトテ 1 号では日産 1,550 バレルの炭化水素の産出を確認した。

なお、このテストの産出量はオペレーション上の制約と環境規制により、抑制されたものとなっている。

同鉦区内では、カシャガンサウスウエスト構造およびアクトテ構造において、今回炭化水素の産出が確認されたことにより、既に 2002 年 6 月に商業発見宣言を行ったカシャガン構造および 2002 年 9 月に原油を発見したカラムカス構造の 4 構造で炭化水素の賦存が確認されたことになる。

これらの内、特に埋蔵量規模が最も大きいと期待されるカシャガン構造においては、既に 2 本の試掘井及び 4 本の評価井を掘削し、それぞれの坑井で原油を確認しており、現段階での予察的評価によれば、可採埋蔵量は 70 億～90 億バレル程度と推定されている。これは過去 30 年で最大の発見であり、超巨大油田となることが期待されている。カシャガン油田は現在開発に向け、準備作業中である。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧 7 社の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している探鉱・開発事業である。

※) 補足説明

1. 北カスピ海鉦区は、東部約 4,300k m²、西部約 1,275k m²（合計約 5,575km²）の 2 つのブロックよりなり、カシャガンサウスウエスト構造は、カザフスタン共和国アティラウカ

ら南約 100km のカスピ海域に位置する水深約 4.6m の東部ブロックにあり、アクトテ構造はカザフスタン共和国アティラウから南東約 120km のカスピ海域に位置する水深約 2.0m の東部ブロックにある。

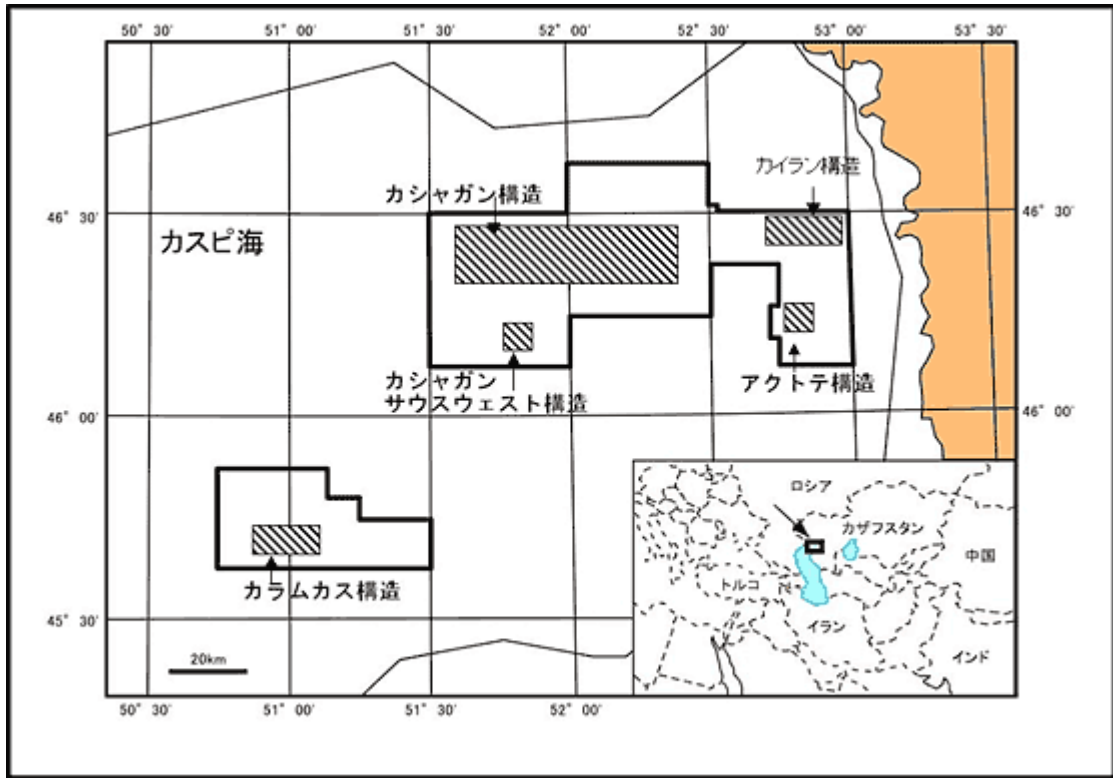
2. 同鉦区には、カシャガン構造、カラムカス構造、カシャガンサウスウエスト構造及びアクトテ構造以外にカイラン構造が残っており、現在、同構造への掘削作業は継続中である。

3. 国際石油開発㈱は、平成 10 年 9 月に本鉦区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社 K C S (Kazakhstan Caspi Shelf) 社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油 (株) を通じて取得し、欧米コンソーシアムの一員となり、その後、BP 社および Statoil 社との間で 2001 年 9 月に各々、締結された権益譲渡協定に基づき鉦区権益を追加取得している。現在のコンソーシアム各社の参加権益比率は、当社(インペックス)8.33%、British Gas 16.67%、Eni 16.67%、ExxonMobil 16.67%、ConocoPhillips 8.33%、Shell 16.67%、Total 16.67%となっている。

4. インペックス北カスピ海石油 (株) は、1998 年 8 月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発 (株) および三菱商事 (株) からの出資を受けている。(現在の資本金は、409 億円、出資比率は、石油公団：50%、インペックス：45%、石油資源開発および三菱商事：各 2.5%)

【備考】

なお、カシャガンサウスウエスト構造、アクトテ構造、カラムカス構造の埋蔵量は、今後の評価作業の結果を待つ必要がある。



カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区図